



しあわせ信州

長野県（教育委員会） プレスリリース 令和6年（2024年）7月29日

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします

令和6年4月18日（木）に文部科学省が実施した「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について、別添のとおりお知らせします。

調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

調査の内容

- 教科に関する調査（小学校調査は国語、算数 中学校調査は国語、数学）
 - ・出題内容は、
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等上記①と②を一体的に問う。
- 生活習慣や学校環境等に関する質問調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

調査の方式

悉皆調査（調査の対象学年の全児童生徒を対象とした調査）

個人と社会の ウェルビーイングの実現

～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」を
とことん追求できる「探究県」長野の学び～

第4次長野県教育振興基本計画 推進中！
— 長野県教育委員会 —



デザイン制作＝高松生×鳥野 野郎～加賀の加賀～
学び応援キャラクター「信州なび助」©長野県教育委員会信州なび助

（問合せ先）

担当 長野県教育委員会事務局
学びの改革支援課 義務教育指導係
井出、小林

電話 026-235-7434（直通）
026-232-0111（代表） 内線 4490

E-mail kyogaku@pref.nagano.lg.jp

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku02/gyose/zenpan/keikaku/keikaku-4.html>

<別添>

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

学びの改革支援課

- 令和元年度から、知識と活用（A・B問題）を一体的に問う調査問題となりました。
- 児童・生徒質問調査、学校質問調査を全てオンライン方式で実施しました。（来年度は中学校理科もオンライン方式での実施を予定しています。）
- 小学校では、国語・算数共に、平均正答数が全国と同程度となりました。
中学校では、国語は全国と同程度、数学は全国を下回りました。
- 小・中学校とも、一人ひとりに合った学び方のよさや、自分で学び方を考え、工夫することのよさを感じ、地域や社会をよりよくしたいと考えている児童生徒の割合が高い傾向が見られます。

1 長野県の実施状況

学校	当日実施学校数（集計対象学校数）	当日実施児童数（小6）・生徒数（中3）
公立小学校	350校（内特別支援学校2校）	15,205人
公立中学校	188校（内特別支援学校6校）	14,719人
公立小・中学校計	538校（内特別支援学校8校）	29,924人

※当日実施児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

2 長野県と全国の平均正答数と平均正答率の比較（公立）

〔上段〕：平均正答数／設定問題数 〔下段〕：平均正答率

校種	年度 教科	令和6年度		年度 教科	令和5年度	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	9.4／14問 67%	9.5／14問 67.7%	国語	9.3／14問 66%	9.4／14問 67.2%
	算数	10.0／16問 62%	10.1／16問 63.4%	算数	9.7／16問 61%	10.0／16問 62.5%
中学校	国語	8.7／15問 58%	8.7／15問 58.1%	国語	10.3／15問 69%	10.5／15問 69.8%
	数学	8.2／16問 51%	8.4／16問 52.5%	数学	7.5／15問 50%	7.6／15問 51.0%
	英語			英語	7.3／17問 43%	7.7／17問 45.6%

※文部科学省において、平均正答率の微小な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

3 長野県と全国の児童・生徒質問調査の肯定的回答の状況（抜粋）

質問事項	校種	令和6年度		
		長野県	全国	全国比
これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	小学校	85.2%	84.3%	+0.9
	中学校	83.1%	80.9%	+2.2
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	小学校	82.7%	80.7%	+2.0
	中学校	80.3%	78.6%	+1.7
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	小学校	85.6%	83.5%	+2.1
	中学校	79.2%	76.1%	+3.1

※肯定的回答は、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答の割合

3 今回の結果を踏まえた重点的な取組

学びの主体は子供であることから、一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求し、もっと学びたいという意欲が向上するとともに、自律した学び手として、子供自ら学びが最適となるよう調整できる授業への改善をめざす。

学びを、知識やスキルの習得に偏ったものから、教科の本質に触れながら探究し続ける中で知識やスキルを獲得し、他者と協働しながら自分なりの「知の体系」を構築していくものへと転換していく授業づくりを支援する。

(1) 各学校の課題に応じた支援

- ・第4次長野県教育振興基本計画に示されている探究を中心とした学びの実現に向け、子供たちが自ら課題や問いを見だし、その解決を目指して、仲間と協働しながら新たな価値を創造していく授業が展開できるよう、教員研修や学校訪問を通して支援する。例えば、個々の認知や発達の特性に応じた学びの在り方や、ICTの効果的な活用等を支援することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていく。
- ・正答率の低い問題の誤答分析やS-P表*の活用などにより、児童生徒のつまづく要因を把握しながら、授業改善に取り組めるよう支援する。
- ・授業改善の成果が見られる学校・市町村（学校組合）教育委員会に聞き取り調査を行い、その効果的な取組を全県に広め、各学校が分析結果を基にこれまでの取組を検証し、組織的・継続的に授業改善に取り組めるよう支援する。
- ・特定の教科や1時間の授業という限られた視点だけでなく、教科の枠に捉われない教科等横断的な視点や、単元や題材等のまとまりで考える視点からの授業改善への支援について研究を行っていく。

(2) 市町村（学校組合）教育委員会との連携の充実

- ・地域の課題を踏まえつつ、探究を中心とした学びの充実や、GIGAスクール構想の取組について、市町村（学校組合）教育委員会とより一層連携し、課題解決に向けた改善を図っていく。

* S-P表：Student-Problem score table のこと。設問の正答率順、正答者数の多い順に児童生徒と設問を並び替えた正誤パターン表のことで、調査問題の特徴や児童生徒の反応パターンなどを分析するための手法。教員にとっては授業改善の手がかりとなり、児童生徒にとっては個別のつまづきが確認できるなど、分析に活用できる。